



Title	「アフリカの健康を守るには？ : ケニアの人々が教えてくれた大切なこと」
Author(s)	桐山, 純奈
Citation	目で見えるWHO. 2013, 52, p. 31-32
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86725
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



「アフリカの健康を守るには？」 ーケニアの人々が教えてくれた大切なことー

慶應義塾大学薬学部 5 年 桐 山 純 奈



Junna KIRIYAMA

日本国際保健医療学会学生部会(jaih-s)第8期副代表。「世界のいのちのために」を合言葉に、国際保健医療を志す学生に勉強会やフィールド実習など様々な学習機会の提供を行う。2012年春に jaih-s の実習を利用し、ケニアで行われている JICA の保健マネジメント強化プロジェクトを視察。将来は「世界中の人々が適切な医療・医薬品にアクセスできるような社会」に貢献することを目指している。

今日はここまでアフリカの保健医療に関わる様々な立場のプロの方からのお話を伺えて、私自身大変勉強になりました。アフリカの保健医療に興味があってこの会場にいらしている学生がいると思います。学生の視点から、「アフリカに興味はあるけどまだ行ったことがない」という方のために、わたしがケニアに行った時のお話をしたいと思います。

今までのお話にもあった通り、アフリカの保健医療を取り巻く環境は非常に深刻で複雑です。私たちはどうすれば、アフリカの人々の健康を守ることができるのでしょうか。

「まずはアフリカの保健医療の実際を見てみたい」そう思って私は昨年の春休みに初めてアフリカ・ケニアを訪れました。ケニアのニャンザ州というところで JICA の杉下智彦先生が保健マネジメント強化プロジェクトを実施されていたので、その見学をしました。なおこの見学は jaih-s の学生フィールドマッチングを通して実現したのですが、このシステムについてはまた後ほどお話します。

私はケニアを訪れ、このプロジェクトを1週間見学して、アフリカの健康を守るために必要だと思うこと3つ学んだので、これからお話したいと思います。

①「ノウハウの提供」

日本や世界で今まで培われた技術や経験で救えるいのち、改善する環境がアフリカにはたくさんあります。私が見たプロジェクトでは、CHEW に自分たちの地域の健康を管理するうえで必要な知識を提供することに時間を割いていました。



BILL & MELINDA GATES foundation

2. 良きパートナーになる

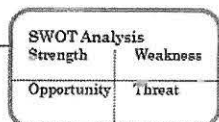
②「良きパートナーになること」

お金だけの支援や一方的な支援でなく、相手に寄り添い、「パートナー」としての関わりが重要だと思います。ここに上げた組織はほんの一部ですし、人と人、個人レベルでのパートナー形成も大切です。私が見た JICA のプロジェクトは、地域の方からの認知度も高く、スタッフの方々も非常に慕われていて、良い関係を築いていました。

1. ノウハウの提供



@CHEW (Community Health Extension Worker) Training



3. オーナーシップ の形成



アフリカの健康を守るのはだれ？

③「オーナーシップの形成」

ここでみなさんに質問ですが、ではいったいアフリカの健康を守るのは誰なのでしょう？ 私は、最終的には現地の方々の手で自立していくことがとても重要だと思います。このように考えたとき、自分たちの地域の問題を自分たちの問題として捉えること、「オーナーシップの形成」も3つめに必要なことです。

ケニアでは、地域の病院のスタッフが自ら村まで出向いて、公衆衛生向上のための取り組みとしてケニア人だけで熱心に教育する姿を見ることができたことが、非常に印象に残っています。

●ケニアの人々が教えてくれたこと

このように、私はケニアで様々な素晴らしい取り組みを見学することができましたが、決して綺麗な面ばかりを見てきたわけではありません。買い物をしてぼったくられそうになったこともありますし、銃を持った警備の方がいらっしやなければとても入れないスラム街にも行きました。

観光に来ているのに人種差別的発言をぐく当たり前のようにする外国人にも出会いました。だからと言って、もうアフリカに行きたくないとは思いません。自分自身の安全管理を怠らず、自分が正しいと思うように人々と接すれば、ケニアの人々は私たちにとても好意的で親切に接してくださいました。ア

フリカの複雑で根深い問題を肌で感じたり、現地の方と向き合うことは、現場に行かなければわからなかったことばかりです。

だからこそ、今アフリカに行くか迷っている人がいるなら、ぜひ現場へ行ってみることをおすすめします。そこで自分自身が何を感じるかということをお大切にしてほしいと思います。あなたも現場へ行ってみませんか？

●jaih-s学生フィールドマッチングについて

私たち日本国際保健医療学会学生部会(jaih-s)は国際保健に関わる人材育成を理念に活動しています。いくつか柱となっている活動の中で、今日は私もこのケニアの経験が出来た学生フィールドマッチングについて詳しくお話します。このプログラムは、学生と国際保健の現場をつなぐ架け橋です。現場で活躍されている先生方のご厚意の下で成り立っており、国際保健に興味のある学生が海外のフィールドへ出て、先生方の現場の仕事を見学や、インターンを行う機会を提供しています。2006年の夏から実施し、2013年の春までに178名の学生を海外のフィールドへ送り出してきました。実習国もテーマも様々あります。学生にできることは限られているかもしれませんが、それでも、私たちjaih-sは、世界のいのちのために、未来を担う学生に機会の提供をし続けます。



日本国際保健医療学会 学生部会
Japan Association for International Health,
Students Section

